

経済産業省主催DXセレクション「優良企業」に選出

# 非IT人材で成果が出る DX成功ルール

2025年  
6月24日発行

株式会社あさ出版(代表取締役:田賀井弘毅、所在地:東京都豊島区)は永谷顕著『非IT人材で成果が出る DX成功ルール』を2025年6月24日(火)に刊行いたします。

海外からも視察殺到！ IT人材ゼロでもDX化が成功するルール

大阪で水道・ガス・電気設備工事を行う中小企業・ミヨシテックは、全社員が非IT人材ながら、経済産業省の「DX認定」および「DXセレクション2024」の優良事例企業に選出された注目企業です。クラウドツールやRPA、AIを導入し、業務の属人化や非効率を解消、年間数百時間の業務時間削減を実現。社長の強いリーダーシップのもと、社員自らアプリを開発する“市民開発型DX”を推進し、国内外からの視察も相次いでいます。本書では、その具体的手法と再現可能な成功ルールを紹介しています。

## タイトル：非IT人材で成果が出る DX成功ルール

著者：永谷顕

ページ数：248ページ ISBN：978-4-86667-760-6

価格：1,650円(10%税込) 発行日：2025年6月24日

### 【目次】

- 1 これだけ！ DX化の成功ルール
- 2 これだけ！ ツール活用の成功ルール
- 3 これだけ！ RPAの成功ルール
- 4 これだけ！ データ分析成功ルール
- 5 これだけ！ 「市民開発」成功ルール
- 6 DX化の成功ルール【事例編】

### 【著者プロフィール】 永谷顕(ながたに・けん)



株式会社ミヨシテック代表取締役社長

1973年、兵庫県西宮市出身。1996年、神戸商船大学(現・神戸大学海洋政策科学部)卒業。1998年、神戸商船大学大学院修了。同年、株式会社ミヨシテック入社。2008年より現職。

「決めた目標に脇目もふらず突き進む」「必要であれば、既存のシステムを容赦なく壊す」ことから、「ブルドーザー社長」と呼ばれる。島根県松江市観光大使。株式会社ミヨシテックは非IT人材のみでDX化を推進し、2022年7月「DX認定」、「kintone AWARD 2022」ファイナリスト、「2024年DXセレクション」優良事例企業に選定される。同社のDX化の取り組みを学ぼうと、国内外から視察が絶えない。



# なぜDX化が必要なのか？

①顧客ニーズが多様化している  
多様なニーズに迅速かつ柔軟に対応できる



②働き手が減っている  
少ない人手でも高い生産性を維持できる



③SE(システムエンジニア)不足が深刻化している  
さまざまなツールの登場で専門知識がなくても業務のデジタル化を進められる

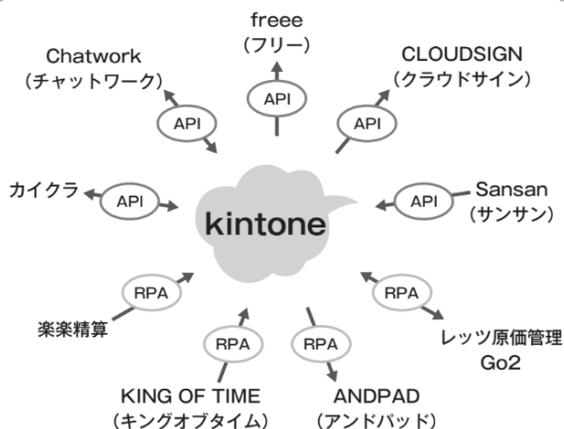


④働き方改革への対応が求められている  
社員の働き方や会社の文化にも変化をもたらせる



## 成功ルール① ツール活用

ミヨシテックが使用しているおもなツール



DXの推進にあたっては、ツールの選択がとても重要。キントーンを情報集約・管理のハブとして、さまざまなツールと連携させています。各ツールの使い方と、ツール選択時に重要なポイントを解説。

### 事例:部品発注管理のデジタル化

注文を手書きで記入・管理  
→ CSVデータからキントーンに反映  
→ **二重注文の防止** + 年間**480枚**の用紙、  
年間**80時間**の入力時間削減に

## 成功ルール② RPA

### RPAとは？

定期的で繰り返しの多い業務を自動化する技術 例:データ入力、レポート作成 など

### 導入のメリット

- ①社員が重要な仕事に集中できる
- ②少人数でも仕事がこなせる
- ③ミスを減らすことができる
- ④コストの削減が期待できる
- ⑤「重要な情報」を効率よく集められる
- ⑥データの連携がスムーズになる

### 事例:予算書印刷の自動化

総務担当者が手作業で印刷  
→ ロボパットが自動で印刷+管理  
アプリに「出力済」ステータスを自動入力  
→ 年間で約**180時間**の時間削減に

## 成功ルール③ データ分析 ④「市民開発」

データ分析プラットフォーム「KI」を採用し、キントーンと組み合わせて使用することで、データの一元管理と高度な分析が可能に。見積依頼や受注分析、在庫・トレンド部品の管理に応用。また、データ活用のハードルが下がり、社員から「これはKIでできる」と声上がるなど、「市民開発」への意識改革が進みました。外部に頼らず社内にノウハウを蓄積できる点も、中小企業のモデルとして注目されています。